

The 40th 第40回東京モーターショー2007

TOKYO MOTOR SHOW 2007 News vol.15



平成19年11月8日

国内二輪車

「ゆったり走行」へ 膨らむ大型バイク人気



「スピード優先」から「ゆったり走行へ」—モーターサイクル市場に、大型バイクを求める新しい風が吹き込んできた。団塊の世代を中心とした年配需要層が大きく膨らんできたためだ。余暇や週末を利用して、夫婦や親子でロングツーリングのタンデム走行を楽しんだり、仲間と一緒にクルージングに興じるなどの世界が広がってきている。需要の拡大には、一昨年的高速道路2人乗りの解禁、AT免許制の導入、さらには昨秋の二輪車ETCの開設などといった行政面からの二輪車利用環境の改善も手を貸している。

こうした市場成熟度の深まりを示す需要性向をキャッチアップしようと、ホンダ、ヤマハ、スズキ、川崎重工の国内二輪メーカー4社の東京モーターショー展示には、既販車のフルモデルチェンジ車、市販予定の参考出品車からデザインスタディのコンセプト

モデルに至るまで、多彩な大型バイクの出品が目立つ。今後は国内市場でも海外二輪車勢との競合激化が避けられないところだ。一方で、若者向けに需要の根強い250cc前後のビッグスクーターも各社の品揃えが豊富で、来場者の関心を呼んでいる。

また環境対応の先進テクノロジーではホンダの二輪車用可変シリンダーシステム搭載エンジンやスズキの3次元カム式エンジンの技術展示、ヤマハのハイブリッド方式のマルチホイールベークル「Tesseract(テッセラクト)」に燃料電池車「FC-AQEL(エフシーアクエル)」、同じくスズキの燃料電池車「crosscage(クロスケージ)」などの参考出品がある。その他、あまり表面には出てこないが、二輪車排ガス規制強化に呼応して、各社新型モデルに燃費性能とクリーン性能を向上させる電子制御燃料噴射装置(FI)の装備が進展している点にも注目したい。

世界初出品10台を含む総出品台数は38台。「Find Your Wings」という出展テーマが示す通り、ホンダブースは“操る楽しみ”を提供する多彩な二輪車展示の世界を繰り広げている。

このうちホンダがアピールしたいのが、世界初出品となるモータサイクルでは最大の1,832cc水平対向6気筒エンジン搭載のオートマチック・スポーツクルーザー・コンセプトモデル「EVO6(エヴォシックス)」、人気の高い250ccビッグスクーターのシリーズ3代目となるフルモデルチェンジ車「FORZA Z ABS(フォルツァ Z ABS)」、伝



シリーズ3代目「FORZA Z ABS」



モダンカフェ・スポーツ「CB1100F」



オートマチック・スポーツクルーザー「EVO6」

統の空冷直列4気筒エンジンを搭載したネイキッド型のモダンカフェ・スポーツ「CB1100F」とハーフカウル「CB1100R」のCBシリーズ両コンセプトモデルなどだ。

「EVO6」は2タイプの選択ができるうえ、手元ボタン操作でMTへの切り替えも可能なホンダ独自開発のAT機構を装備。一切のムダを省いた個性的で迫力にあふれたボディスタイルが魅力。「FORZA Z ABS」は市販予定車で、一段と流麗感を増したスタイリングに加え、ホンダ軽スクーターでは初めてとなるビルトインのオーディオシステムを全タイプに設定しているのが大きな特徴。新設計の水冷4ストローク4バルブ単気筒エンジンを搭載、ATには常に最適なレシオを選択する「負荷判別制御機能」も追加されている。その他に、開発中の大型バイク用可変シリンダーシステムなど、いかにもホンダらしい技術展示も見どころのひとつだ。



近未来感を漂わせるデザインスタディ・コンセプト「Biplane」

ブース中央奥のメインステージ上で、まず目に飛び込んでくるのがデザインスタディ・コンセプトの「Biplane(バイプレーン)」。1,000cc水冷V型4気筒エンジンをタテ置きにしたことでできた近未来感を漂わせるフルカバーのボディは、機械なのに「ふわり」とした複葉機に乗っているような感じをデザインモチーフにしている。

環境提案モデル「crosscage(クロスケージ)」は、シンプルで小型・軽量の空冷式燃料電池システムと高性能二次電池の組み合わせで、最適な電力制御ができる燃料電池車。「Gemma(ジェンマ)」は、低く流れるような洗練されたフォルムと、後部席との一体感を追及したフルフラット2シーターのビッグスクーター。以上いずれも世界初出品車だ。

その他に輸出仕様のフラッグシップモデル「B-KING」、「Hayabusa1300」などを合わせて15台を参考出品しており、「走る喜び・使う楽しみ・持つ幸せ」を二輪車ブーステーマとしたスズキの総出品台数は市販車13台を加え、計28台となっている。

技術展示では、エンジン特性を連続可変させる3次元カムの採用で、全回転域での燃費効率とトルクの向上を図った「3次元カム式エンジン」を出品。東京モーターショーでは3回連続の展示となるが、市販化に向けた取り組みに入っているという。



燃料電池車「crosscage」



フルフラット2シーター「Gemma」

ヤマハ発動機

参考出品車19台を一挙公開、エキサイティングなヤマハミュージアム



YAMAHA

北ホールのヤマハ発動機の展示ブースは実にエキサイティングである。エントランスすぐ横では2007年シーズンの二輪レースの最高峰MotoGPの参戦マシン「YZR-M1」と最先端技術を結集したスーパースポーツモデル「YZF-R1」が出迎えてくれる。プレスブリーフィングで梶川隆社長は「8年連続の増益で、今期の連結売上高は初めて1兆円の大会に乗る」と、自信たっぷりにスピーチしたが、その好調ぶりがブース内でも伝わってくる。

今回も“The Art of Engineering”をブースコンセプトに、参考出品車19台を一挙に展示。このうち、ワールドプレミアは、エンジンとモーターの平行ハイブリッドモーターサイクル「LUXAIR(ラクシア)」をはじめ、水冷Vツインエンジンとモーターによるハイブリッド方式のマルチホイールビークル「Tesseract」、メタノール水溶液を燃料とする燃料電池二輪車のニューモデル「FC-Dii」など9車種を公開。ジャパンプレミアも5車種を出品している。



燃料電池バイクのニューモデル「FC-Dii」

また一見変わった近未来バイク「BOBBY」は、シート、ハンドル、ペダルや後輪が折りたため、コンパクトに収納が可能。非接触ICチップのFeliCa機能を搭載した携帯電話をかざすだけで電源のON/OFFができるという鍵いらずの電動バイクで、来場者から「これは便利」とひととき注目度が高い。



注目度の高い近未来バイク「BOBBY」



スピーチする梶川隆社長



平行ハイブリッドモーターサイクル「LUXAIR」

川崎重工業

欧州排ガス規制への適合やABS仕様など「環境と安全」を最重視



今回も鮮やかなグリーンカラーのマシンが際立つ川崎重工業の展示ブース。スリムな車体に前後輪17インチタイヤを組み合わせた250ccのニューモデル「D-TRACKER X」のワールドプレミア1台と、ジャパンプレミア4台を含め、参考出品モデルは13台。「今回のモデルは、欧州排ガス規制『EURO-3』への適合モデルやABS仕様を設定するなど、環境と安全により一層配慮している」(丹波晨一 常務・汎用機カンパニープレジデント)のが特徴だ。

今回のカワサキブースは大きく2つのコーナーに分かれる。スタイリッシュな外観とスポーツ性を融合させたスポーツモデルの「Ninja 250R」をはじめ、オフロード走行性を強化し、スタイリングを一新した「KLX250」など、カワサキのイメージカラーであるライムグリーンを配したモデルを中心に展示したステージと、フルモデルチェンジした「Ninja ZX-10R」など、海外市場から高い評価を得てい



スポーツモデルの「Ninja 250R」



ワールドプレミア「D-TRACKER X」



スタイリングを一新した「KLX250」

る大排気量スーパースポーツモデルを中心としたステージで構成。

このほか、MotoGP参戦マシン「Ninja ZX-RR」をはじめ、AMAスーパークロス、FIMワールドスーパークロスGPで優勝したマシン「KX-450F」、全日本モトクロス選手権に参戦の「KX250F-SR」の展示コーナーもモータースポーツファンの人気を集めている。



「垂直ウィリー」に子どもたちも大喜び



難度の高い階段下り



2台そろってジャンプ

岩山や森、川などの大自然を、オフロードバイクで縦横無尽に走り回るトライアル競技。ライフスタイルパークでは毎日、トライアルデモンストレーションが行われ、トライアルの小林直樹、本多元治両選手がトライアルの驚異のテクニックを披露している。

前輪を上げて走行するウィリー、後輪を上げるジャックナイフのさいは、観客とコースを仕切る鉄柵まであと数センチというところでビタリと停車。

階段、壁の上り下りなど、およそバイクが走るとは思えないようなコースも華麗にパスしてみせる、ワザが決まるたびに観客からは大きな拍手がわいていた。

そんな高度なライディングテクニックを持つ両選手、安全運転への意識もきわめて高い。中盤のトークショーでは、酒を飲んだら絶対に運転しないようにと、観客に飲酒運転の撲滅を呼びかけた。

TOPICS

迷子、落し物、問い合わせ…
困った時には何でもどうぞ！

広々とした会場で困った時の駆け込み寺みたいに利用できるのが、1階中央にあるインフォメーションプラザだ。場内アナウンス、迷子の保護や落し物の取り扱いがワンセット設置されていて、とても便利。

利用者の数は平日で200～250人、土日はその約2倍

にもなるらしいが、海外からの来場者の増加を反映して外国人の迷子も増えつつあるとか。落し物ではカメラ用品、携帯電話、傘、鍵類が目立つ。来場者向けのメモ書きによるメッセージボードが設けられ、利便性がとてもよい。ちなみに11月7日現在の迷子は167人、落し物は1547件だった。

メッセージボードも設置されている
インフォメーションプラザ石田純一さん、青田典子さん出演
「恋ナビ対決スペシャルトークショー」に大爆笑

会場内の西休憩ゾーンにある「ライフスタイルパーク」では、毎日さまざまなイベントが楽しめるが、6日昼には、人気タレントの石田純一さんと青田典子さんによる「恋ナビ対決スペシャルトークショー」が開かれた。ふたりは読売新聞と「TOKYO★1週間」（講談社）のコラボ連載「恋ナビ対決」で、石田さんが初代、青田さんが2代目の審査委員長をつとめている。

トークショーでは、ドライブデートの穴場スポットから、愛車のことまでユーモラスに語り合った。ステージ前に集まった来場者は、昼の憩いのひとときをふたりの楽しいおしゃべりに大爆笑していた。



ふたりの楽しいおしゃべりに大爆笑

EVENT

今日のイベント(予定)

11月8日
(木)

- シンポジウム (国際会議場2階 国際会議室)
張会長ユーザーミーティング
14:00～16:00

<ライフスタイルパーク (西休憩ゾーン)>

- ダブルダッチ
10:45～11:15 / 16:15～16:45
- bayfm78 東京モーターショーレポート
11:30～12:00
- トライアルデモンストレーション
12:15～12:45 / 13:15～15:45
- 張会長ユーザーミーティング(ライブ映像)
14:00～16:00

- スロットカー・サーキット (北ホール2階・キッズパーク)
10:00～18:00
- ミニシアター〜クルマの夢・楽しさ・素晴らしさ〜
10:40～12:25 / 13:05～17:35 (国際会議場3階 302号室)
- 4×4 アドベンチャー同乗試乗会
11:00～16:00 (幕張海滨公園Gブロック内 特設専用コース)
- セーフティドライブ体験試乗会
11:00～16:00 (幕張海滨公園Gブロック内 特設専用コース)
- クリーンエネルギー車同乗試乗会
11:00～16:00 (幕張海滨公園D・Eブロック内 特設専用コース)
- 商用車同乗試乗会
11:00～16:00 (幕張メッセ周辺公道
幕張メッセ南休憩ゾーン東側通路発着 東ホール東側)

※試乗券配布場所: 幕張メッセ南休憩ゾーン西側 ※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。



KONICA MINOLTA



The essentials of imaging

高速・高画質・高品質 最大65枚フルカラー出力

印刷から加工までインラインで高速処理。多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。

※A4コピ

ON DEMAND PUBLISHER C65

このニュースは、コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C65で出力しています。コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
TEL 03-5205-7820
URL http://konicaminolta.jp/pr/odp

The 40th

TOKYO MOTOR SHOW 2007

11月7日の入場者数 72,400人

入場者数累計 1,058,900人

東京モーターショーニュースVol.15 2007年11月8日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA